

東川改修事業の効果について

東川沿川では、平成元年以来、4度にわたる大きな浸水被害にみまわれています。特に市街地中心部の開明橋付近は、毎年のように洪水被害が発生しており、最近では、平成4年7月15日の集中豪雨による洪水で広範囲に浸水しました。

しかし、市街化が進むなか、良好な桜並木の景観と宅地が混在していることにより、河道拡幅等による河川改修が大変難しい状況でした。

密集市街地に
早急に必要な浸水対策



川沿いの
桜並木や緑の景観を保全



私法橋から西武新宿橋付近は市街化が進み、周辺に人家が密集しています。この付近は特に川幅が狭く、大雨が降るとたびたび浸水被害が起きています。

西武新宿橋より下流については、東京オリンピック記念の桜並木が続いています。特に春には良好な景観を形成し、住民の憩いの場として愛されています。

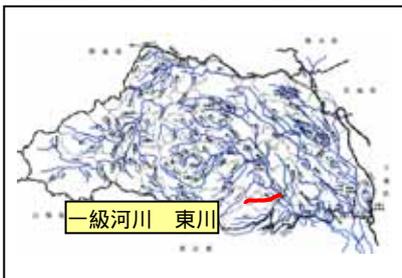
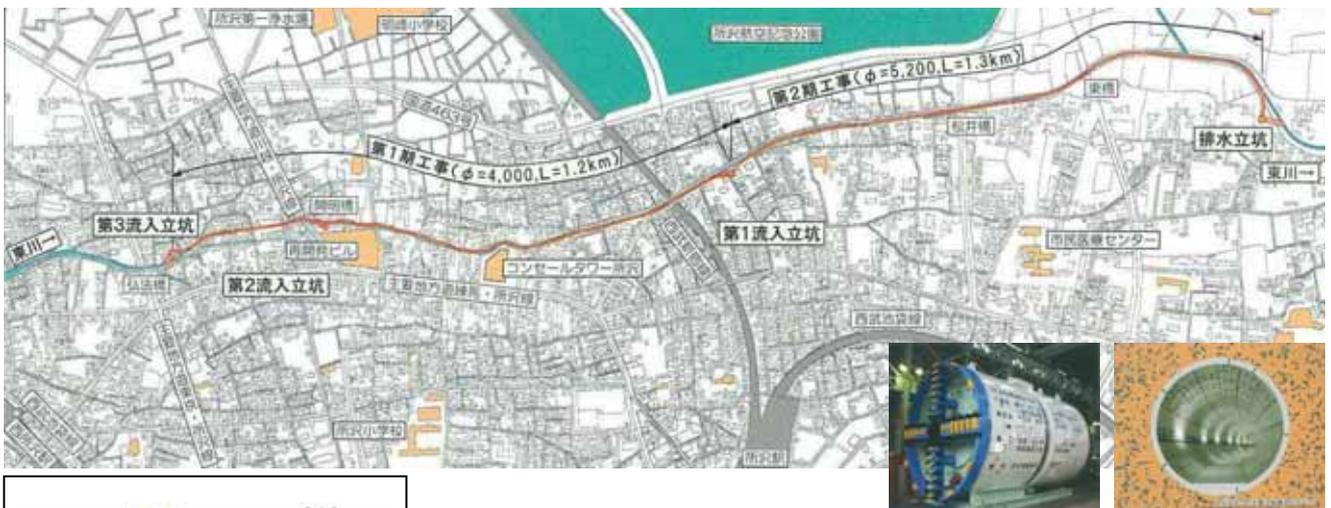
災害に強いまちづくり

**土地の有効利用、工期の短縮、経済性、
景観の保全のために地下が最適**



地下河川による東川の改修

床上浸水対策特別緊急事業
総合治水対策特定河川事業



現在、第1期工事(L=1.2km)の整備を進めており、平成16年度、出水期には、シールド内による15,000m³の貯留機能を先行して発揮することにより、流域の治水安全度の向上を図るものです。